

市民創造型観光イベント「函館野外劇」の意義

ー来場者調査及び出演者調査

大 橋 美 幸

1. はじめに

函館野外劇は1988年から26年間にわたり毎年、五稜郭公園で行われている公演であり、7月下旬から8月上旬の土・日曜日の約10日間、19:30～21:00に行われる。スタッフや出演者は全員、市民のボランティアである。

1999年にNPO法人化。2003年から3年をかけて演出を見直し、テーマ曲をつくり、ストーリー展開を会場の史跡・五稜郭を中心としたものにするなどのリニューアルを行った。2012年の観客数は8400人である。

函館野外劇は市民がつくりだす観光イベントである。これまでに、このような市民創造型イベント、観光ボランティアにおいて、市民のつながり、まちづくりへ波及などが報告されている。

沼田は市民参加型芸術祭である横浜トリエンナーレを調査し、イベントを通じてボランティアの交流が広がり、つながりが構築されたことを報告している¹⁾。堺都市政策研究所は、市民参加発表と市民の交流に焦点をあてた音楽イベントを調査し、ボランティアスタッフの意義、地域の活性化への波及を含めた結果をまとめている²⁾。

函館に関してはバル街が「函館の旧市街地をまずは函館市民に、次で観光客に知ってもらおう」ことを目的にはじめられ、交流を重視し、まちづくりを視野に入れた取り組みを行っていることが報告されている³⁾。函館で開催された「オンパク」（温泉街が市民参加型のプログラムを提供するイベント）

のモデルである別府オンパクは、プログラムの中でまちづくり活動の支援を目的とする「まちづくり支援型」が例年1～3割を占め、まちづくり活動や人材育成に役立っていることが報告されている⁴⁾。

観光ボランティアについては、加藤らが観光分野における市民が主体となった取り組みとして観光ガイドを紹介しており⁵⁾、堺市では観光ガイドが個々人の活動に終わらず、ボランティアガイド団体として観光まちづくりを考え政策提言を行うようになっている⁶⁾。

函館野外劇において、このようなまちづくり活動につながる参加者の意識の変化を把握するため、来場者及び出演者調査を行った。市民創造型観光イベントである野外劇の意義と課題を明らかにすることを目的とする。

2. 来場者調査

(1) 調査方法

調査時期は2012年度、2013年度の函館野外劇の全日程（2012年7月6日～8月11日：12日間、2013年7月5日～8月11日：10日間）である。

函館野外劇の来場者に対してアンケート調査を行った。入口でアンケートを配布し、終了後出口で回収した。

調査項目は回答者基本属性（性別・年代・居住地）、野外劇を知った経緯、印象に残った場面、観劇動機などである。

2012年度は配布数8403、回収数3127、回収率38.7%。2013年度は8153、回収数2811、回収率34.5%。

(2) 来場者の全体像

2012年度、2013年度ともに女性が6割であった【図表2.1】。

年代は2012年度、2013年度ともに40代・50代・60代で半数を占めていた【図表2.2】。

2012年度、2013年度ともに7割近くが函館市民であった【図表2.3】。

2012年度のデータで見ると居住地別の年代に大きな偏りは見られなかった【図表2.4】。北海道以外で中学生の観劇者が多いのは修学旅行であり、海外は大学生等の留学生である。

観劇は初めての人が2012年度、2013年度ともに半数程度であった【図表2.5】。2012年度で見ると、函館市民は「2回以上」・「5回以上」を合わせて半数を超える。函館以外の人（七飯町、北斗市、上記以外道内、北海道以外、海外を含む）は「2回以上」・「5回以上」を合わせて25%であった【図表2.6】。

2012年度で、性別による観劇回数を見てもあまり差は見られない【図表2.7】。

野外劇を知った経緯は2012年度、2013年度ともに「ポスター」、「知人・職場」が多い【図表2.8】。「その他」は観光ツアーなどがあった。

2012年度のデータを居住地別に見ると、函館市民、函館近隣の七飯町・北斗市は「ポスター」で知る人が多いが、前記以外の道内や北海道以外は「知人・職場」や「家族」の口コミから知った人が多い【図表2.9】。北海道以外で「その他」が多いのは修学旅行生、海外で「知人・職場」が多いのは留学生が友人や学校から知ったためである。

年代別では、どの年代も「ポスター」、「知人・職場」で知った人が多い。「新聞」で野外劇を知った人は、年代が上がるに連れて増えていた【図表2.10】。

一番印象に残っている場面は2012年度に「箱館戦争と土方歳三」が半数を占め、「ペリー来航と箱館開港」、「アイヌとコロポックル」の順であった【図表2.11】。「その他」はフィナーレ、全部などである。

一番印象に残っている場面は性別によって差は見られない【図2.12】。年代でもあまり差は見られない【図表2.13】。

観劇動機は2012年度、2013年度ともに「野外劇に興味がある」が4割近く、「おもしろそうだったため」、「歴史に興味があるため」が2～3割であった【図表2.14】。「その他」として授業の一環、函館市民として当たり前という意見もあった。

2012年度を観劇回数別に見ると、初めての人は、2回以上・5回以上観劇している人と比べて「観光の一部として」がやや多く、「野外劇に興味があるから」がやや少ない【図表2.15】。

2013年度の野外劇への同行者は、家族が6割であり、友人の順であった【図表2.16】。

2013年度の野外劇への交通手段は、自家用車が半数を超えていた【図表2.17】。

野外劇への参加は、出演してみたい人が3割近い【図表2.18】。性別によって差は見られない【図表2.19】。

出演してみたい人、スタッフをしてみたい人はあらゆる年代にわたっていた【図表2.20・21】。「出演したい」と答えていないが「スタッフをしてみたい」と答えている人が2400人中348人（14.5%）おり、出演とスタッフは希望者が異なっている。

観劇回数が増えると「参加したことがある」人が増える【図表2.22】。

（3）野外劇の評価

2012年度に野外劇の満足度評価を行った。総合評価で満足が8割近かった。不満が多いのは、トイレや座席等の設備と、グッズ・飲食物の販売であった【図表2.23】。

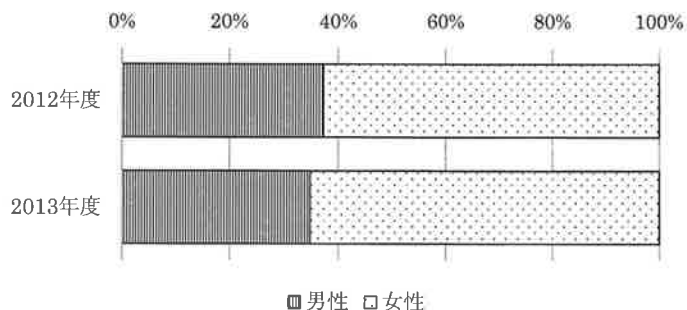
劇の内容については「面白かった」、「函館の歴史がよくわかった」などの意見が多かった。プログラムの見やすさについては「写真がたくさんあり、カラーなので見やすい」という声もあったが、「広告ばかりである」という意見も多く見られた。トイレ座席の設備については「座席が怖い・足場が悪い」、「仮設トイレがいやだ・不潔である」などの意見が多かった。グッズ・飲食物の販売は「もう少しグッズや飲食物の種類を増やしてほしい」という声が見られる中、「ペンライトが高い」という声もあった。音響等設備は迫力があり「とても感動した・とても聞きやすかった」という意見がある中、

「マイクの音が途切れた」などの意見もあった。総合評価として「とても感動した、また来たい」という意見が多くを占めていた。

野外劇に対する意見として「面白かった・よかった」、「演出などがすばらしかった」、「楽しかった」、「また来たい」などの意見があった【図表2.24】。

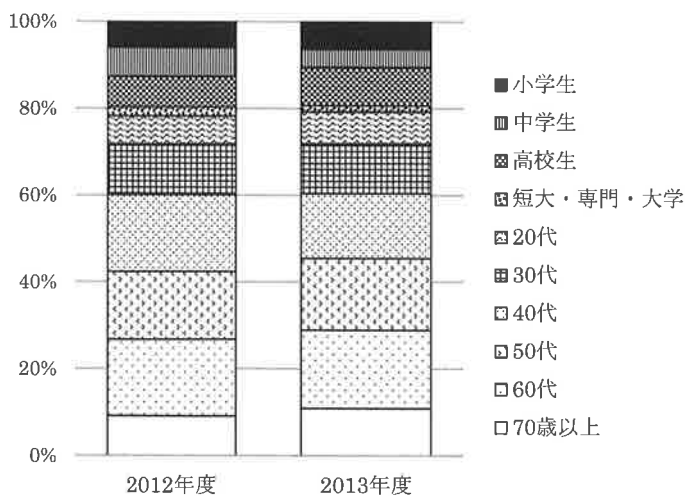
図表2.1 性別

	男性	女性	合計
2012 年度	1154 (36.9%)	1943 (62.1%)	3127 (100.0%)
2013 年度	967 (34.4%)	1808 (64.3%)	2811 (100.0%)



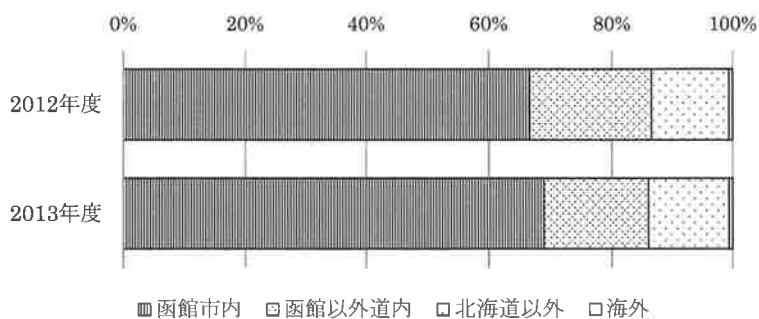
図表2.2 年代

	2012 年度	2013 年度
小学生	176 (5.9%)	172 (6.3%)
中学生	198 (6.6%)	114 (4.2%)
高校生	230 (7.7%)	238 (8.8%)
短大・専門・大学	64 (2.1%)	38 (1.4%)
20 代	191 (6.4%)	201 (7.4%)
30 代	347 (11.6%)	311 (11.5%)
40 代	527 (17.6%)	404 (14.9%)
50 代	465 (15.5%)	451 (16.6%)
60 代	524 (17.5%)	487 (18.0%)
70 歳以上	274 (9.1%)	296 (10.9%)
合計	2996 (100.0%)	2712 (100.0%)



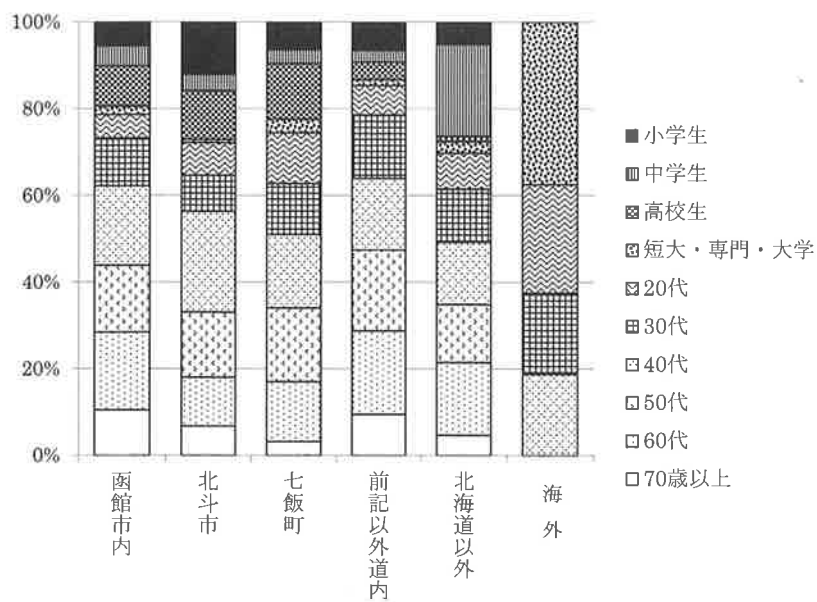
図表2.3 居住地

	2012 年度	2013 年度
函館市内	2066 (66.6%)	1929 (68.9%)
函館以外道内	618 (19.9%)	479 (17.1%)
北海道以外	399 (12.9%)	374 (13.4%)
海外	19 (0.6%)	18 (0.6%)
合計	3102 (100.0%)	2793 (100.0%)

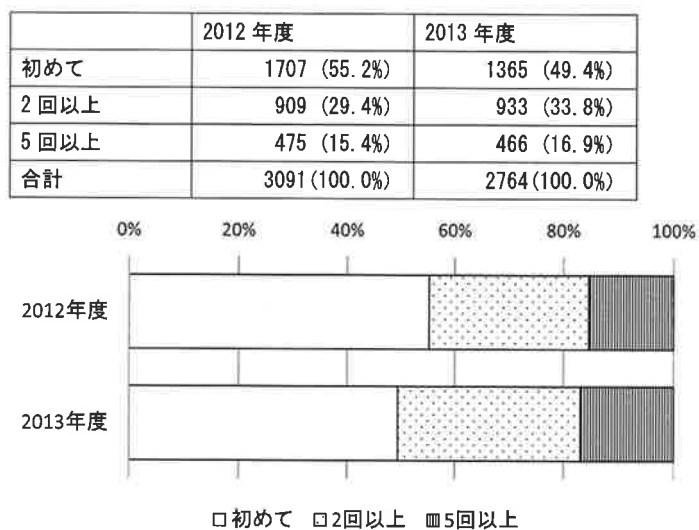


図表2.4 居住地別の年代

	函館 市内	七飯町	北斗市	前記以 外道内	北海道 以外	海外	合計
小学生	109 (5.5%)	6 (6.4%)	16 (12.0%)	24 (6.5%)	21 (5.1%)	0 (0.0%)	176 (5.8%)
中学生	93 (4.7%)	3 (3.2%)	5 (3.8%)	10 (2.7%)	87 (21.2%)	0 (0.0%)	198 (6.6%)
高校生	183 (9.2%)	12 (12.8%)	15 (11.3%)	15 (4.1%)	5 (1.2%)	0 (0.0%)	230 (7.6%)
短大・専 門・大学	38 (1.2%)	3 (3.2%)	1 (0.8%)	5 (1.4%)	11 (2.7%)	6 (37.5%)	64 (2.1%)
20 代	107 (5.4%)	11 (11.7%)	10 (7.5%)	25 (6.8%)	34 (8.3%)	4 (25.0%)	191 (6.3%)
30 代	220 (11.1%)	11 (11.7%)	11 (8.3%)	54 (14.6%)	50 (12.2%)	3 (18.8%)	349 (11.6%)
40 代	365 (18.4%)	16 (17.0%)	31 (23.3%)	61 (16.5%)	59 (14.4%)	3 (18.8%)	535 (17.8%)
50 代	306 (15.4%)	16 (16.0%)	20 (15.0%)	69 (18.7%)	55 (13.4%)	0 (0.0%)	466 (15.5%)
60 代	358 (18.0%)	13 (13.8%)	15 (11.3%)	71 (19.2%)	69 (16.8%)	0 (0.0%)	526 (17.5%)
70 歳以上	208 (10.5%)	3 (3.2%)	9 (6.8%)	35 (9.5%)	19 (4.6%)	0 (0.0%)	274 (9.1%)
合計	1987 (100.0%)	94 (100.0%)	133 (100.0%)	369 (100.0%)	410 (100.0%)	16 (100.0%)	3009 (100.0%)

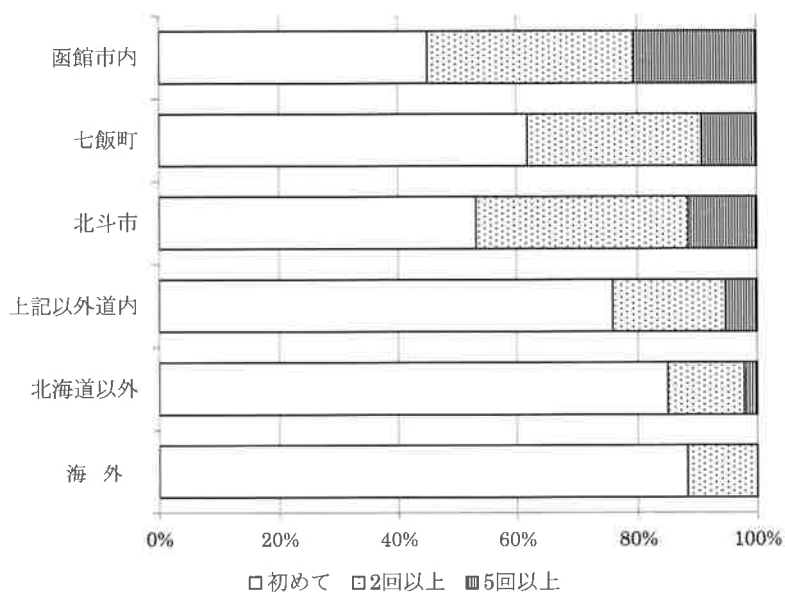


図表2.5 観劇回数



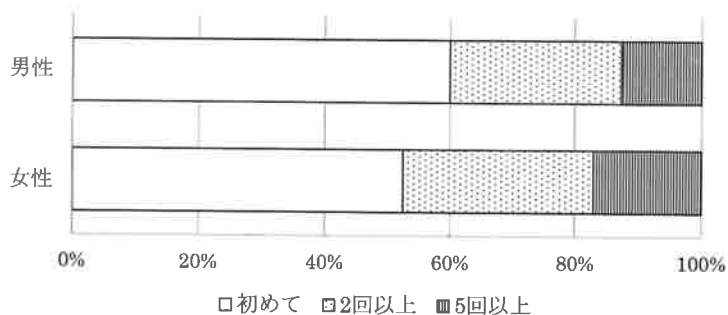
図表2.6 居住地別の観劇回数

	初めて	2回以上	5回以上	合計
函館市内	924 (45.0%)	707 (34.5%)	421 (20.5%)	2052 (100.0%)
七飯町	60 (61.8%)	28 (28.9%)	9 (9.3%)	97 (100.0%)
北斗市	74 (53.2%)	49 (35.3%)	16 (11.5%)	139 (100.0%)
上記以外道内	284 (76.0%)	70 (18.7%)	20 (5.3%)	374 (100.0%)
北海道以外	350 (84.9%)	53 (12.9%)	9 (2.2%)	412 (100.0%)
海外	15 (88.2%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	17 (100.0%)
合計	1707 (55.2%)	909 (29.4%)	475 (15.4%)	3091 (100.0%)



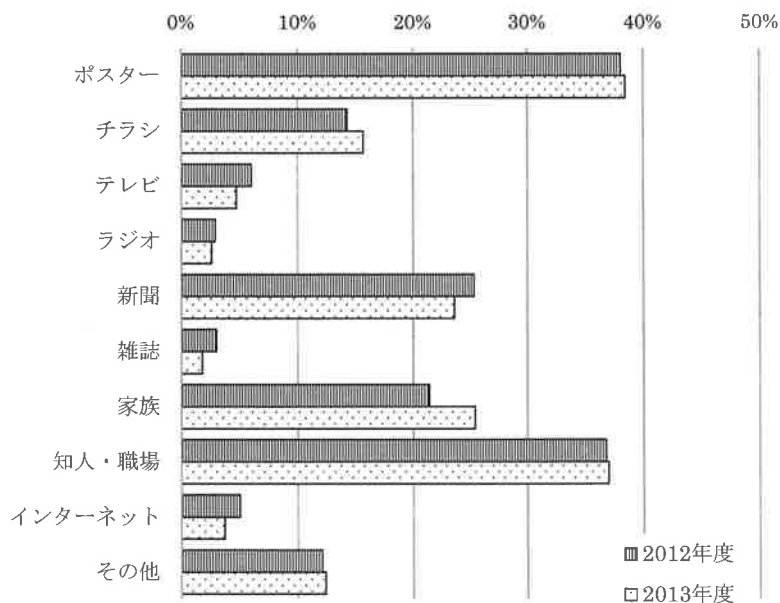
図表2.7 性別による観劇回数

	男性	女性	合計
初めて	688 (60.0%)	1018 (52.5%)	1706 (55.3%)
2回以上	314 (27.4%)	591 (30.5%)	905 (29.3%)
5回以上	145 (12.6%)	330 (17.0%)	475 (15.4%)
合計	1147 (100.0%)	1939 (100.0%)	3086 (100.0%)



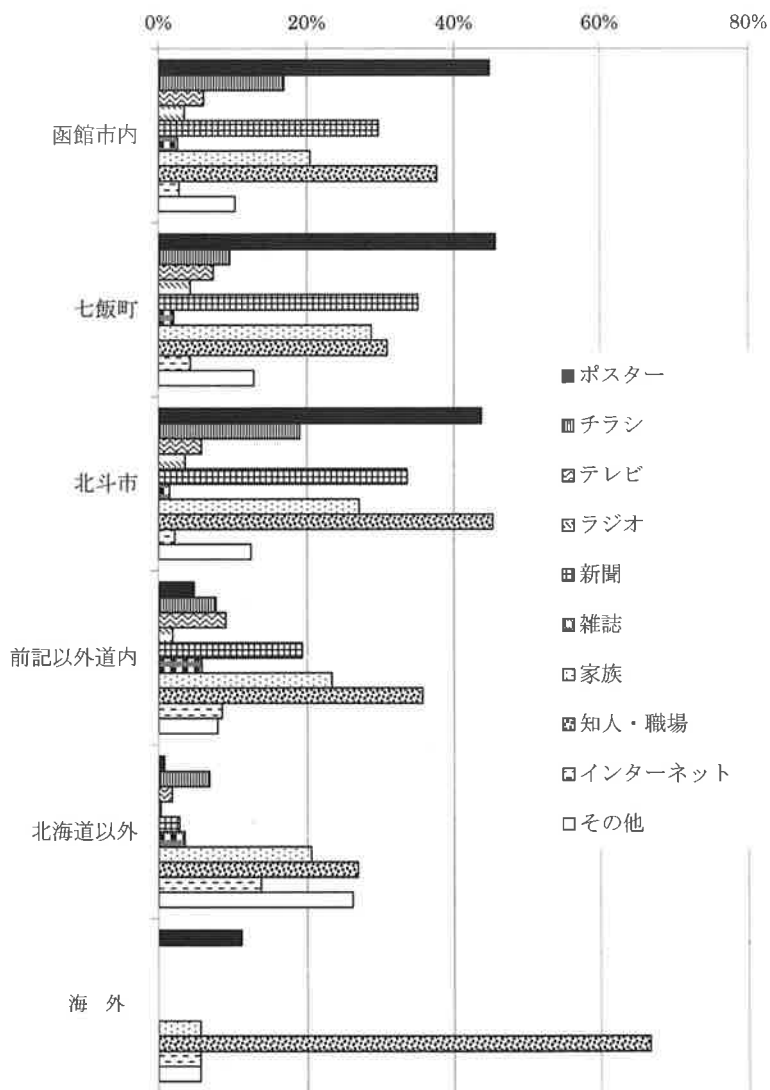
図表2.8 野外劇を知った経緯

	2012 年度 (n=3018)	2013 年度 (n=2679)
ポスター	1150 (38.1%)	1031 (38.5%)
チラシ	432 (14.3%)	420 (15.7%)
テレビ	180 (6.0%)	126 (4.7%)
ラジオ	89 (2.9%)	69 (2.6%)
新聞	764 (25.3%)	631 (23.6%)
雑誌	91 (3.0%)	49 (1.8%)
家族	647 (21.4%)	681 (25.4%)
知人・職場	1110 (36.8%)	991 (37.0%)
インターネット	150 (5.0%)	100 (3.3%)
その他	364 (12.1%)	331 (12.4%)



図表2.9 居住地別の野外劇を知った経緯

	市内 (n=2034)	七飯町 (n=94)	北斗市 (n=137)	前記以外 道内 (n=378)	北海道以 外 (n=395)	海外 (n=18)
ポスター	914 (44.9%)	43 (45.7%)	60 (43.8%)	18 (4.8%)	3 (0.8%)	2 (11.1%)
チラシ	344 (16.9%)	9 (9.6%)	26 (19.0%)	29 (7.7%)	27 (6.8%)	0 (0.0%)
テレビ	124 (6.1%)	7 (7.4%)	8 (5.8%)	34 (9.0%)	7 (1.8%)	0 (0.0%)
ラジオ	72 (3.5%)	4 (4.3%)	5 (3.6%)	7 (1.9%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)
新聞	605 (29.7%)	33 (35.1%)	46 (33.6%)	73 (19.3%)	11 (2.8%)	0 (0.0%)
雑誌	52 (2.6%)	2 (2.1%)	2 (1.5%)	22 (5.8%)	14 (3.5%)	0 (0.0%)
家族	414 (20.4%)	27 (28.7%)	37 (27.0%)	88 (23.3%)	81 (20.5%)	1 (5.6%)
知人・職場	766 (37.7%)	29 (30.9%)	62 (45.3%)	135 (35.7%)	106 (26.8%)	12 (66.7%)
インターネット	57 (2.8%)	4 (4.3%)	3 (2.2%)	32 (8.5%)	54 (13.7%)	1 (5.6%)
その他	209 (10.3%)	12 (12.8%)	17 (12.4%)	30 (7.9%)	103 (26.1%)	1 (5.6%)



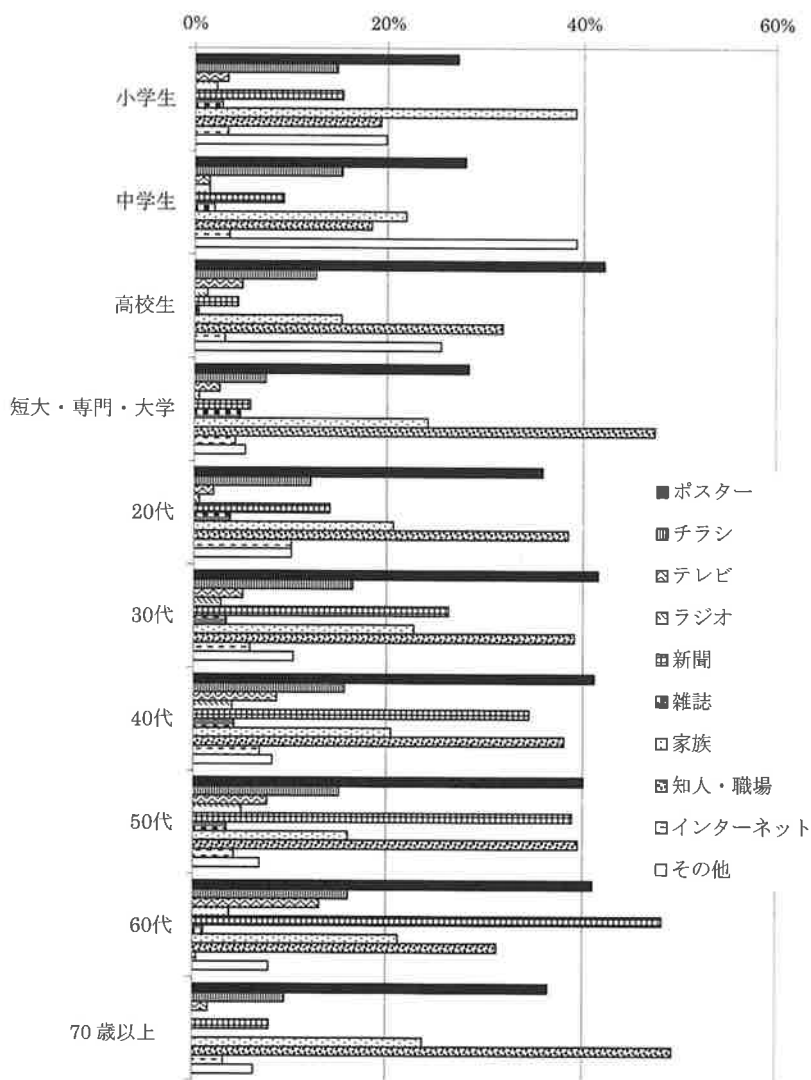
図表2.10 年代別の野外劇を知った経緯

(学生)

	小学生 (n=176)	中学生 (n=196)	高校生 (n=223)	短大・専門・大学 (n=63)
ポスター	48 (27.3%)	55 (28.1%)	94 (42.2%)	23 (36.5%)
チラシ	26 (14.8%)	30 (15.3%)	28 (12.6%)	6 (9.5%)
テレビ	6 (3.4%)	3 (1.5%)	11 (4.9%)	1 (1.6%)
ラジオ	4 (2.3%)	3 (1.5%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)
新聞	27 (15.3%)	18 (9.2%)	10 (4.5%)	5 (7.9%)
雑誌	5 (2.8%)	4 (2.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
家族	69 (39.2%)	43 (21.9%)	34 (15.2%)	15 (23.8%)
知人・ 職場	34 (19.3%)	36 (18.4%)	71 (31.8%)	31 (49.2%)
インター ネット	6 (3.4%)	7 (3.6%)	7 (3.1%)	2 (3.2%)
その他	35 (19.9%)	77 (39.3%)	57 (25.6%)	4 (6.3%)

(学生以外)

	20 代 (n=190)	30 代 (n=348)	40 代 (n=534)	50 代 (n=454)	60 代 (n=524)	70 歳 以上 (n=268)
ポスター	54 (28.4%)	125 (35.9%)	222 (41.6%)	187 (41.2%)	210 (40.1%)	110 (41.0%)
チラシ	14 (7.4%)	42 (12.1%)	88 (16.5%)	71 (15.6%)	79 (15.1%)	43 (16.0%)
テレビ	5 (2.6%)	7 (2.0%)	27 (5.1%)	39 (8.6%)	40 (7.6%)	35 (13.1%)
ラジオ	1 (0.5%)	2 (0.6%)	15 (2.8%)	18 (4.0%)	26 (5.0%)	10 (3.7%)
新聞	11 (5.8%)	49 (14.1%)	141 (26.4%)	157 (34.6%)	204 (38.9%)	129 (48.1%)
雑誌	9 (4.7%)	13 (3.7%)	18 (3.4%)	19 (4.2%)	18 (3.4%)	3 (1.1%)
家族	46 (24.2%)	72 (20.7%)	122 (22.8%)	93 (20.5%)	84 (16.0%)	57 (21.3%)
知人・ 職場	90 (47.4%)	134 (38.5%)	209 (39.1%)	173 (38.1%)	207 (39.5%)	84 (31.3%)
インター ネット	8 (4.2%)	35 (10.1%)	31 (5.8%)	31 (6.8%)	22 (4.2%)	1 (0.4%)
その他	10 (5.3%)	35 (10.1%)	55 (10.3%)	37 (8.1%)	36 (6.9%)	21 (7.8%)



図表2.11 一番印象に残っている場面

アイヌとコロボックル	211	(9.4%)
高田屋嘉兵衛の時代	106	(4.7%)
ペリー来航と箱館開港	292	(13.0%)
五稜郭の建築	126	(5.6%)
箱館戦争と土方歳三	1192	(53.2%)
函館大火と石川啄木	133	(5.9%)
その他	211	(9.4%)
合計	2240	(100.0%)

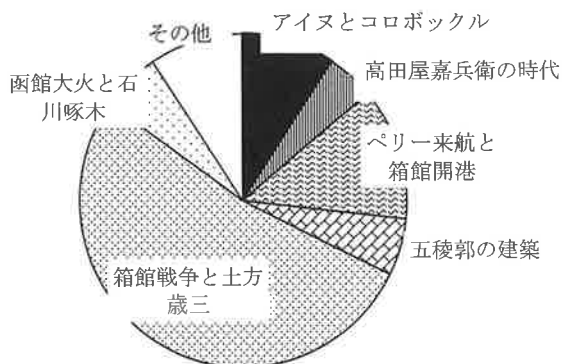
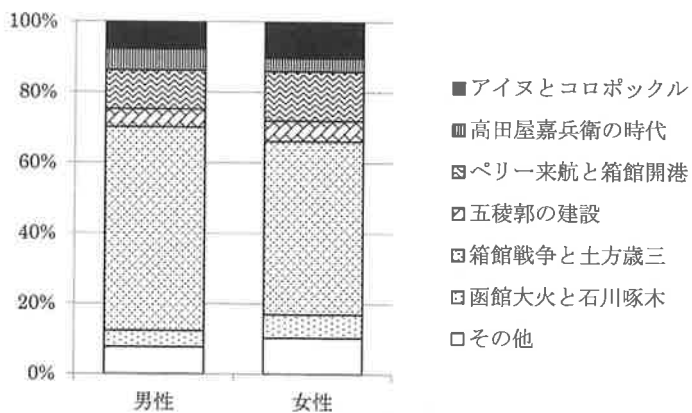


図2.12 性別による印象に残った場面



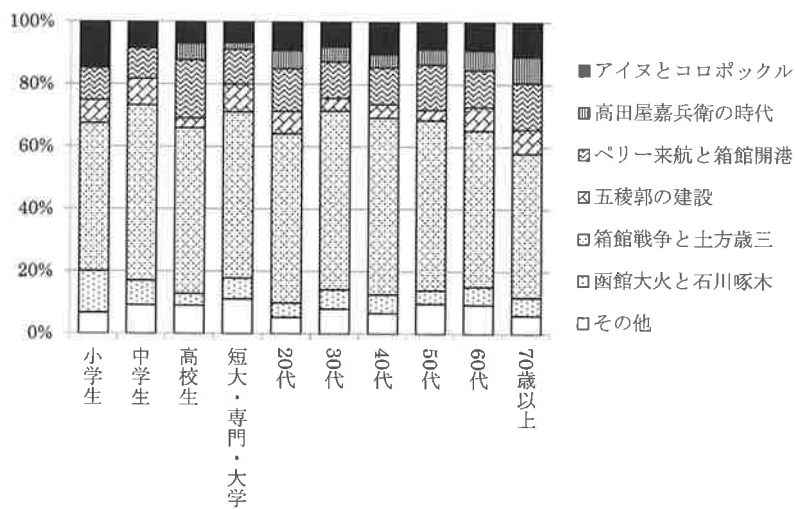
図表2.13 年代別の印象に残った場面

(学生)

	小学生	中学生	高校生	短大・専門・大学
アイヌとコロポックル	19 (14.1%)	13 (8.5%)	13 (6.9%)	3 (6.7%)
高田屋嘉兵衛の時代	1 (0.7%)	0 (0.0%)	10 (5.3%)	1 (2.2%)
ペリー来航と箱館開港	14 (10.4%)	15 (9.8%)	35 (18.6%)	5 (11.1%)
五稜郭の建設	10 (7.4%)	13 (8.5%)	6 (3.2%)	4 (8.9%)
箱館戦争と土方歳三	64 (47.4%)	86 (56.2%)	100 (53.2%)	24 (53.3%)
函館大火と石川啄木	18 (13.3%)	12 (7.8%)	7 (3.7%)	3 (6.7%)
その他	9 (6.7%)	14 (9.2%)	17 (9.0%)	5 (11.1%)
合計	135 (100.0%)	153 (100.0%)	188 (100.0%)	45 (100.0%)

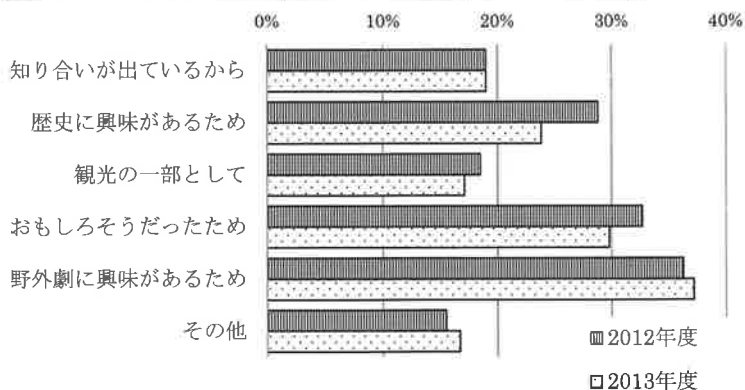
(学生以外)

	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
アイヌとコロポックル	14 (9.2%)	23 (7.9%)	41 (10.3%)	28 (8.7%)	31 (9.0%)	17 (11.0%)
高田屋嘉兵衛の時代	9 (5.9%)	14 (4.8%)	17 (4.3%)	16 (5.0%)	22 (6.4%)	13 (8.4%)
ペリー来航と箱館開港	21 (13.7%)	34 (11.7%)	47 (11.8%)	47 (14.6%)	41 (11.9%)	23 (14.9%)
五稜郭の建設	11 (7.2%)	12 (4.1%)	17 (4.3%)	11 (3.4%)	26 (7.5%)	12 (7.8%)
箱館戦争と土方歳三	83 (54.2%)	166 (57.2%)	225 (56.7%)	176 (54.5%)	173 (50.1%)	71 (46.1%)
函館大火と石川啄木	7 (4.6%)	18 (6.2%)	24 (6.0%)	14 (4.3%)	20 (5.8%)	9 (5.8%)
その他	8 (5.2%)	23 (7.9%)	26 (6.5%)	31 (9.6%)	32 (9.3%)	9 (5.8%)
合計	153 (100.0%)	290 (100.0%)	397 (100.0%)	323 (100.0%)	345 (100.0%)	154 (100.0%)



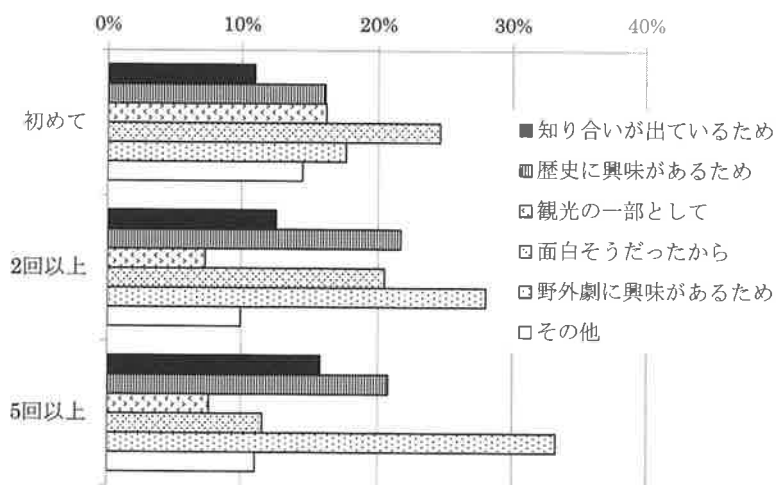
図表2.14 観劇動機

	2012 年度 (n=2875)	2013 年度 (n=2569)
知り合いが出ているから	545 (19.0%)	489 (19.0%)
歴史に興味があるため	829 (28.8%)	611 (23.8%)
観光の一部として	532 (18.5%)	439 (17.1%)
おもしろそうだったため	941 (32.7%)	766 (29.8%)
野外劇に興味があるため	1045 (36.3%)	955 (37.2%)
その他	447 (15.5%)	430 (16.7%)



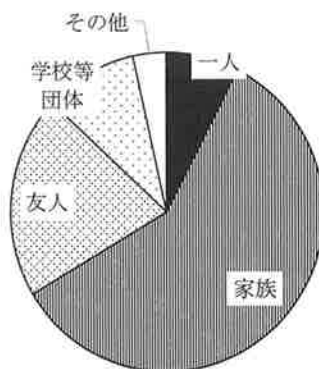
図表2.15 観劇回数別の観劇動機

	知り合いが出ているため	歴史に興味があるため	観光の一部として	おもしろそうだったから	野外劇に興味があるため	その他	合計
初めて	259 (11.0%)	380 (16.1%)	382 (16.2%)	580 (24.6%)	416 (17.6%)	341 (14.5%)	2358 (100.0%)
2回以上	168 (12.6%)	290 (21.7%)	98 (7.3%)	274 (20.5%)	375 (28.0%)	133 (9.9%)	1338 (100.0%)
5回以上	120 (15.8%)	158 (20.8%)	58 (7.6%)	88 (11.6%)	253 (33.2%)	84 (11.0%)	761 (100.0%)
合計	547 (12.3%)	828 (18.6%)	538 (12.1%)	942 (21.1%)	1044 (23.4%)	558 (12.5%)	4457 (100.0%)



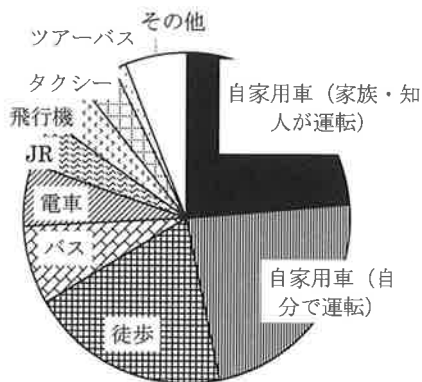
図表2.16 野外劇への同行者

一人	209	(7.6%)
家族	1623	(58.9%)
友人	566	(20.5%)
学校等団体	264	(9.6%)
その他	95	(3.4%)
合計	2757	(100.0%)



図表2.17 野外劇への交通手段

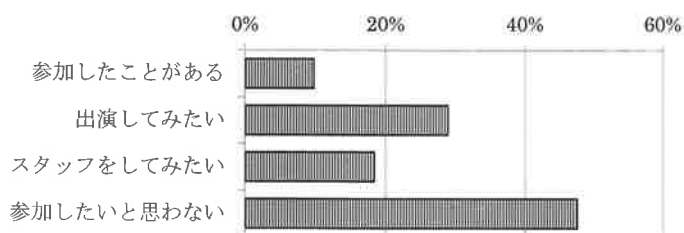
自家用車(家族・知人が運転)	736 (27.3%)
自家用車(自分で運転)	719 (26.7%)
徒歩	613 (22.7%)
バス	240 (8.9%)
電車	190 (7.1%)
JR	143 (5.3%)
飛行機	138 (5.1%)
タクシー	109 (4.0%)
ツアーバス	38 (1.4%)
その他	189 (7.0%)
合計	2695 (100.0%)



図表2.18 野外劇への参加

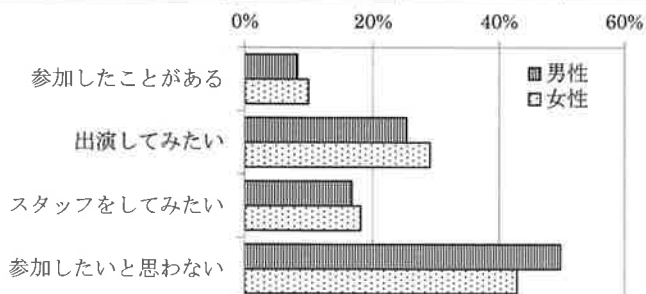
(n=2398)

参加したことがある	235 (9.8%)
出演してみたい	692 (28.9%)
スタッフをしてみたい	441 (18.4%)
参加したいと思わない	1142 (47.6%)



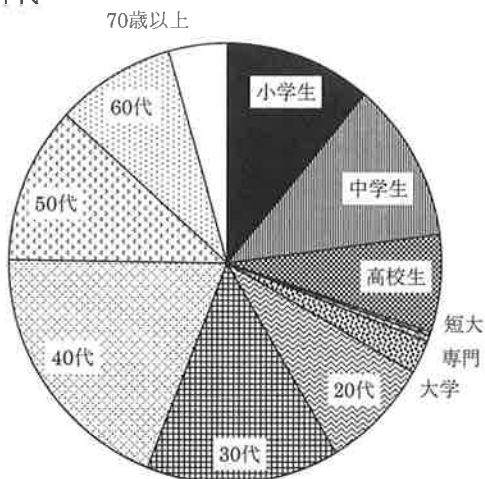
図表2.19 性別による野外劇への参加

	男性 (n=941)	女性 (n=1578)	合計 (n=2519)
参加したことがある	77 (8.2%)	157 (9.9%)	234 (9.3%)
出演してみたい	238 (25.3%)	458 (29.0%)	696 (27.6%)
スタッフをしてみたい	157 (16.7%)	286 (18.1%)	443 (17.6%)
参加したいと思わない	469 (49.8%)	677 (42.9%)	1146 (45.5%)



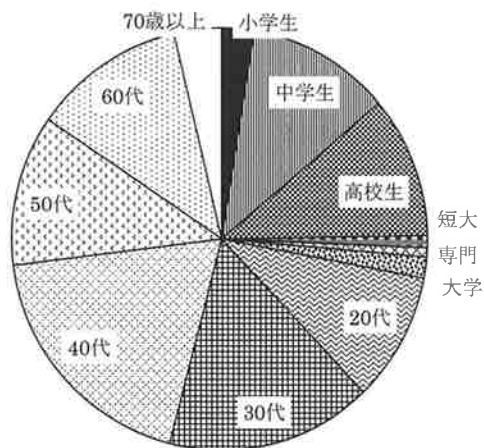
図表2.20 出演してみたい人の年代

小学生	76 (11.1%)
中学生	81 (11.8%)
高校生	49 (7.1%)
短大	2 (0.3%)
専門	3 (0.4%)
大学	17 (2.5%)
20代	57 (8.3%)
30代	99 (14.4%)
40代	132 (19.2%)
50代	79 (11.5%)
60代	61 (8.9%)
70歳以上	30 (4.4%)
合計	686 (100.0%)



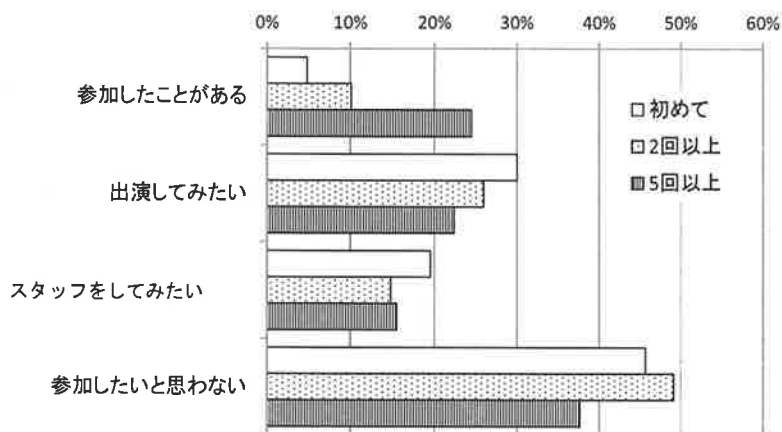
図表2.21 スタッフをしてみたい人の年代

小学生	11 (2.5%)
中学生	49 (11.3%)
高校生	47 (10.9%)
短大	4 (0.9%)
専門	3 (0.7%)
大学	7 (1.6%)
20代	43 (9.9%)
30代	70 (16.2%)
40代	82 (18.9%)
50代	50 (11.5%)
60代	51 (11.8%)
70歳以上	16 (3.7%)
合計	433 (100.0%)



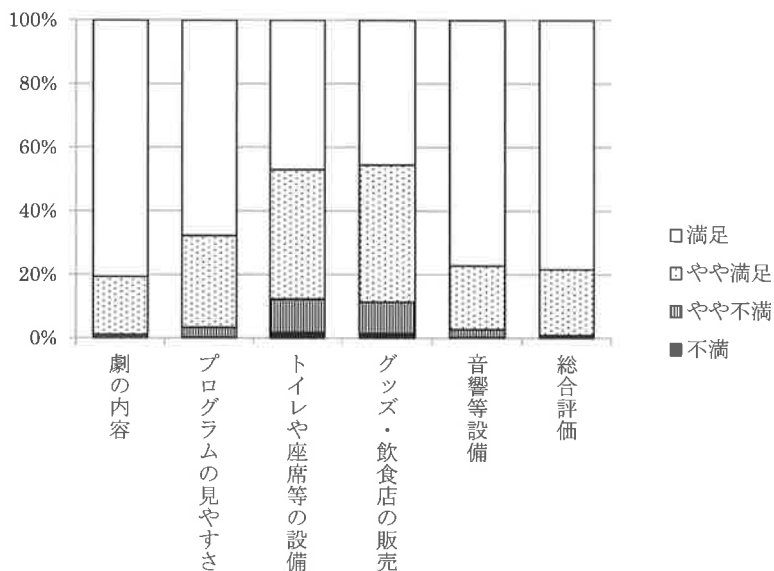
図表 2.22 観劇回数別の野外劇への参加

	初めて	2 回以上	5 回以上	合計
参加したことがある	67 (4.8%)	75 (10.1%)	93 (24.5%)	235 (9.3%)
出演してみたい	418 (30.0%)	193 (26.0%)	85 (22.4%)	696 (27.7%)
スタッフをしてみたい	272 (19.5%)	110 (14.8%)	59 (15.5%)	441 (17.5%)
参加したいと思わない	636 (45.7%)	365 (49.1%)	143 (37.6%)	1144 (45.5%)
合計	1393 (100.0%)	743 (100.0%)	380 (100.0%)	2516 (100.0%)



図表2.23 野外劇の評価

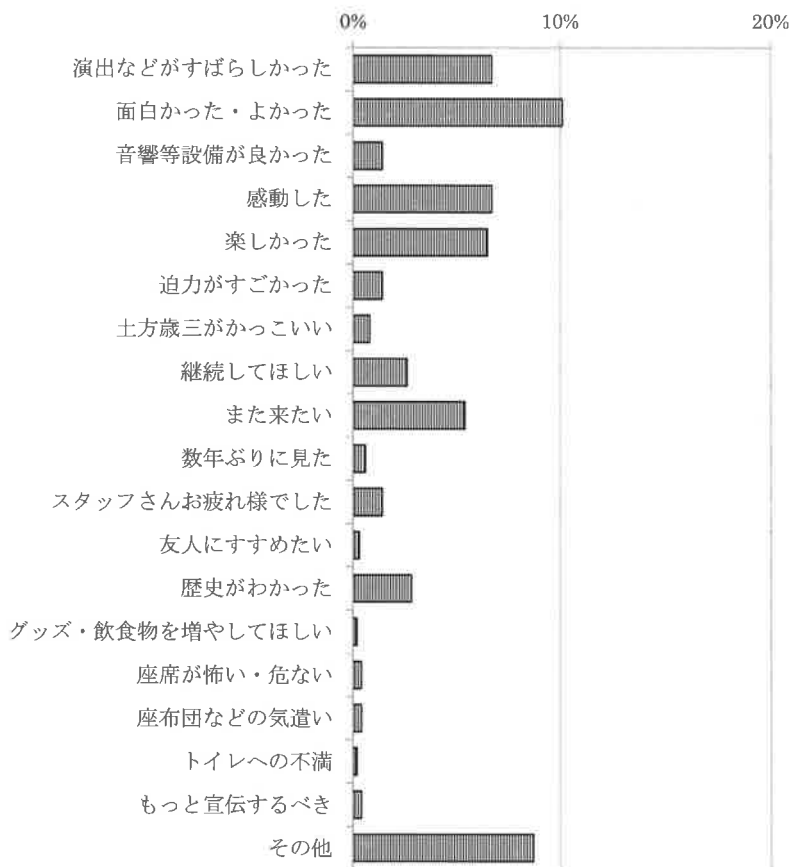
	満足	やや満足	やや不満	不満	合計
劇の内容	2153 (80.7%)	486 (18.2%)	23 (0.9%)	6 (0.2%)	2668 (100.0%)
プログラムの見やすさ	1888 (67.7%)	807 (29.0%)	86 (3.1%)	5 (0.2%)	2786 (100.0%)
トイレや座席等の設備	1281 (47.1%)	1109 (40.7%)	286 (10.5%)	47 (1.7%)	2723 (100.0%)
グッズ・飲食物の販売	1220 (45.5%)	1153 (43.1%)	264 (9.9%)	39 (1.5%)	2676 (100.0%)
音響等設備	2162 (77.3%)	560 (20.0%)	68 (2.4%)	9 (0.3%)	2799 (100.0%)
総合評価	2203 (78.4%)	581 (20.7%)	21 (0.7%)	5 (0.2%)	2810 (100.0%)



図表 2.24 野外劇に対する意見

(n=3127)

演出などがすばらしかった	210 (6.7%)
面白かった・よかった	315 (10.1%)
音響等設備が良かった	43 (1.4%)
感動した	208 (6.7%)
楽しかった	204 (6.5%)
迫力がすごかった	43 (1.4%)
土方歳三がかっこいい	26 (0.8%)
継続してほしい	81 (2.6%)
また来たい	168 (5.4%)
数年ぶりに見た	18 (0.6%)
スタッフさんお疲れ様でした	45 (1.4%)
友人にすすめたい	10 (0.3%)
歴史がわかった	86 (2.8%)
グッズ・飲食物を増やしてほしい	7 (0.2%)
座席が怖い・危ない	11 (0.4%)
座布団などの気遣い	14 (0.4%)
トイレへの不満	7 (0.2%)
もっと宣伝するべき	14 (0.4%)
その他	271 (8.7%)



3. 出演者調査

(1) 調査方法

調査時期は、個人参加は2012年函館野外劇の初日、7月6日からアンケート50枚を配布し終わるまで。団体参加は12日間の日程の最終2日、8月10日・11日の2日間である。

出演者に対してアンケート調査を行った。受付でアンケートを配布し、後日郵送で回収した。

調査項目は回答者基本属性（性別・年代・居住地）、出演を知った経緯、出演動機、出演前後の意識変化などである。

個人参加は配布数50、回収数29、回収率58.0%。

団体参加は配布数469、回収数236、回収率50.3%。

(2) 出演者の全体像

個人参加は女性が多く、団体参加は男性が多かった【図表3.1】。個人参加は50代・60代で半分を占めているが、団体参加は10代・20代・30代で半分を占めている【図表3.2】。

個人参加は函館以外の方が45%、団体参加は9割が函館市民であった【図表3.3】。

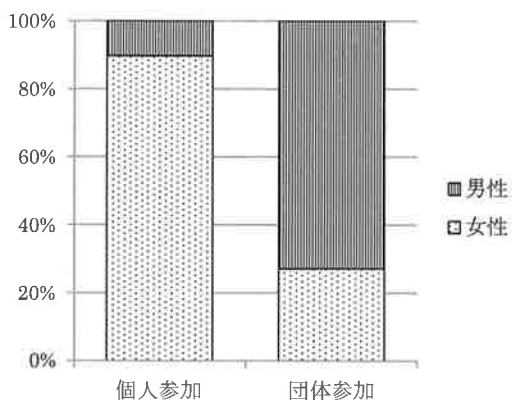
野外劇出演を知った経緯は、個人参加でポスターや新聞、知人・職場、団体参加は知人・職場が多かった【図表3.4】。個人参加の「その他」にダイレクトメールや口コミなど、団体参加の「その他」に部活や習い事などがあった。個人参加のうち函館市民は「家族」で知った人が多く、半数を超えていた【表3.5】。

出演動機は、個人参加で野外劇に興味があり、面白そうだったからという理由が多く【図表3.6】、その他に「友人と一緒に出演したいから」、「恩師に誘われたから」などがあった。団体参加は知り合いや職場に頼まれたからという理由が多く【図表3.6】、その他に「習い事」、「部活で」などがあった。

出演回数は、個人参加は初めてが55%であり、20回という人もいた。団体参加は4回以上が4割であり、50回という人もいた【図表3.7】。

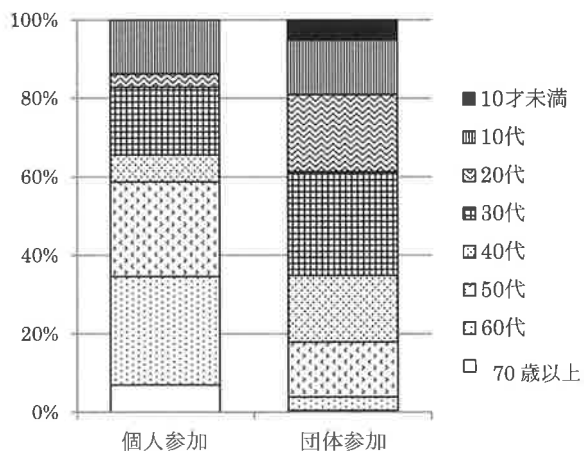
図表3.1 性別

	個人参加	団体参加
男性	3 (10.3%)	172 (72.9%)
女性	26 (89.7%)	64 (27.1%)
合計	29 (100.0%)	236 (100.0%)



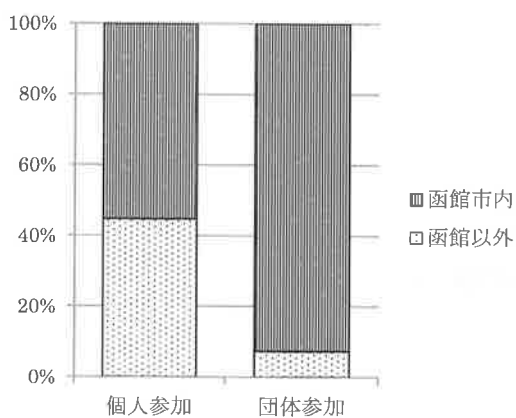
図表3.2 年代

	個人参加	団体参加
10才未満	0 (0.0%)	12 (5.1%)
10代	4 (13.8%)	33 (14.0%)
20代	1 (3.4%)	46 (19.6%)
30代	5 (17.2%)	62 (26.4%)
40代	2 (6.9%)	40 (17.0%)
50代	7 (24.1%)	33 (14.0%)
60代	8 (27.6%)	8 (3.4%)
70歳以上	2 (6.9%)	1 (0.4%)
合計	29 (100.0%)	235 (100.0%)



図表3.3 居住地

	個人参加	団体参加
函館市内	16 (55.2%)	215 (92.7%)
函館以外	13 (44.8%)	17 (7.3%)
合計	29 (100.0%)	232 (100.0%)



図表3.4 野外劇出演を知った経緯

	個人参加 (n=29)	団体参加 (n=236)
ポスター	10 (34.5%)	45 (19.1%)
チラシ	1 (3.4%)	7 (3.0%)
テレビ	0 (0.0%)	1 (0.4%)
ラジオ	1 (3.4%)	0 (0.0%)
新聞	5 (17.2%)	8 (3.4%)
雑誌	1 (3.4%)	3 (1.3%)
家族	4 (13.8%)	6 (2.5%)
知人・職場	13 (44.8%)	184 (78.0%)
インターネット	1 (3.4%)	2 (0.8%)
その他	6 (20.7%)	37 (15.7%)

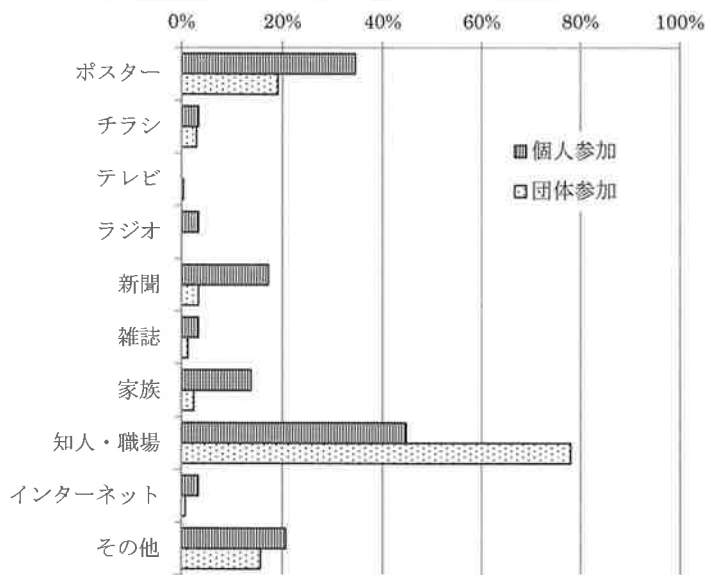
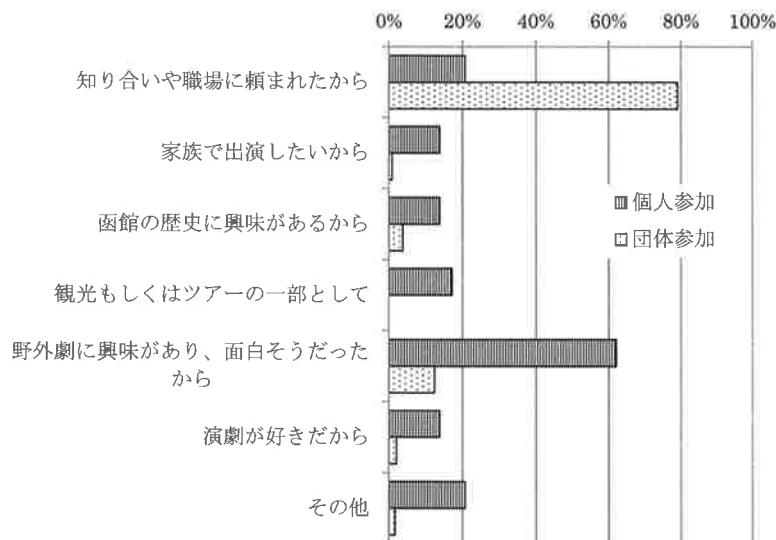


表3.5 居住地別の野外劇出演を知った経緯（個人参加）

	函館市内 (n=16)	函館以外 (n=13)
ポスター	6 (37.5%)	4 (30.8%)
チラシ	0 (0.0%)	1 (7.7%)
テレビ	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ラジオ	0 (0.0%)	1 (7.7%)
新聞	2 (12.5%)	3 (23.1%)
雑誌	0 (0.0%)	1 (7.7%)
家族	9 (56.3%)	4 (30.8%)
知人・職場	6 (37.5%)	4 (30.8%)
インターネット	1 (6.3%)	0 (0.0%)
その他	4 (25.0%)	2 (15.4%)

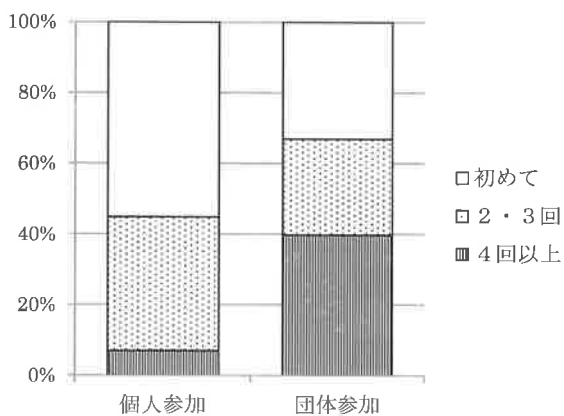
図表 3.6 出演動機

	個人参加 (n=29)	団体参加 (n=234)
知り合いや職場に頼まれたから	6 (20.7%)	185 (79.1%)
家族で出演したいから	4 (13.8%)	2 (0.9%)
函館の歴史に興味があるから	4 (13.8%)	9 (3.8%)
観光もしくはツアーの一部として	5 (17.2%)	0 (0.0%)
野外劇に興味があり、面白そうだったから	18 (62.1%)	29 (12.4%)
演劇が好きだから	4 (13.8%)	5 (2.1%)
その他	6 (20.7%)	4 (1.7%)



図表3.7 出演回数

	個人参加	団体参加
初めて	16 (55.2%)	76 (33.2%)
2・3回	11 (37.9%)	62 (27.1%)
4回以上	2 (6.9%)	91 (39.7%)
合計	29 (100.0%)	229 (100.0%)



（３）出演者の意識変化と印象

函館のまちづくり活動に参加したいと思うか尋ねたところ、個人参加では「全くそう思う」、「そう思う」を合わせて、出演前の６割から出演後９割に増えた【図表3.8】。出演を通じて、函館のまちづくりにより参加したいと思うようになることが分かる。

居住地別に見ても、函館市民・函館以外の人ともに「全くそう思う」、「そう思う」が出演後に増加していた【図表3.9・10】。函館市民・函館以外を問わず、出演を通じて、函館のまちづくりに参加したいと考えるようになっていく。

団体参加では「全くそう思う」、「そう思う」を合わせて、出演前６割から出演後７割に増えた【図表3.11】。個人参加ほど顕著ではないものの、出演を通じて、函館のまちづくりにより参加しようと思うようになっていることが分かる。

出演回数によって、団体参加の意識変化を見ると、「全くそう思う」「そう思う」を合わせて、初めての人は出演前５割から７割になり【図表3.12】、４回以上出演している人は７割から８割になった【図表3.14】。２・３回の人は７割のまま変わらなかった【図表3.13】。初めての人、多く出演している人で、意識変化があることが分かる。

函館の歴史に興味や関心はあるか尋ねたところ、個人参加は「全くそう思う」、「そう思う」を合わせて、出演前８割から出演後９５％に増えた【図表3.15】。出演を通じて、函館の歴史により興味・関心を持つようになることが分かる。

居住地別に個人参加の意識変化を見ると、函館市民は出演後に「全くそう思う」、「そう思う」が増えたが、函館以外の方は出演後も変わらなかった【図表3.16・17】。出演後に函館の歴史により興味・関心を持つようになるのは函館市民に限られることが分かる。

団体参加は「全くそう思う」、「そう思う」を合わせて、出演前後ともに８割で変化が見られない【図表3.18】。団体参加では、個人参加で見られたよ

うな、出演を通じた意識変化がないことが分かる。

出演回数別に団体参加の意識変化を見ても、出演前後で変化が見られなかった。

出演した満足度を尋ねたところ、個人参加は全員、団体参加は8割が参加して良かったと答えていた【図表3.19】。

理由として、個人参加は「楽しかった」、「歴史がわかったから」が多く【図表3.20】、その他に「子供が喜んでいたので」、「家族の演技を見ることができたから」などがあつた。

団体参加では「楽しかった」が多く、「まちづくりに貢献できたから」などがあつた【図表3.21】。その他に不満として「マンネリ化している」、「次の日に仕事だから大変」、「スタッフの対応が悪い」、「キャスト村が汚く、不清潔である」などがあつた。

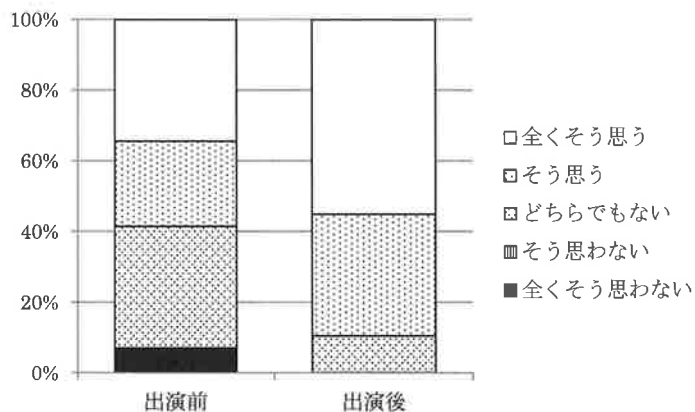
個人参加はほとんどの人、団体参加は7割がまた参加したいと回答していた【図表3.22】。

理由として、個人参加は「楽しかったから」、「違う役をやってみたい」が多かつた【図表3.23】。その他に「遠方のため参加できない」、「スタッフの対応がよい」という意見があつた。

団体参加は「楽しかったから」が多く、「継続してもらいたいから」という意見もあつた【図表3.24】。「マンネリ化している」という厳しい意見もあつた。その他に「虫刺されがひどい」、「キャスト村をきれいにしてほしい」、「野外劇事務局の対応が悪い」、「気遣いがいい」などの意見もあつた。

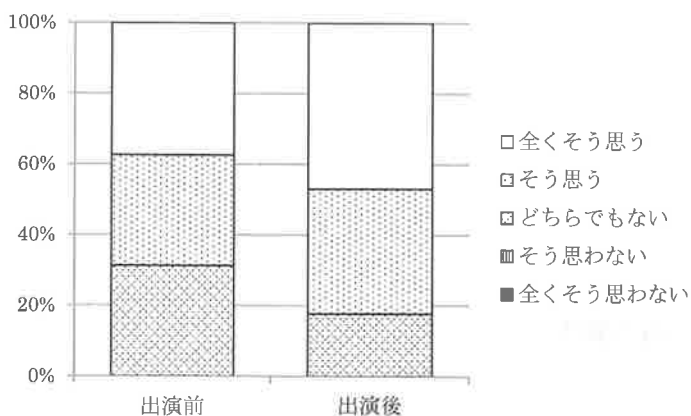
図表3.8 出演前後の函館のまちづくりに関する意識変化（個人参加）

	出演前	出演後
全くそう思う	10 (34.5%)	16 (55.2%)
そう思う	7 (24.1%)	10 (34.5%)
どちらでもない	10 (34.5%)	3 (10.3%)
そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全くそう思わない	2 (6.9%)	0 (0.0%)
合計	29 (100.0%)	29 (100.0%)



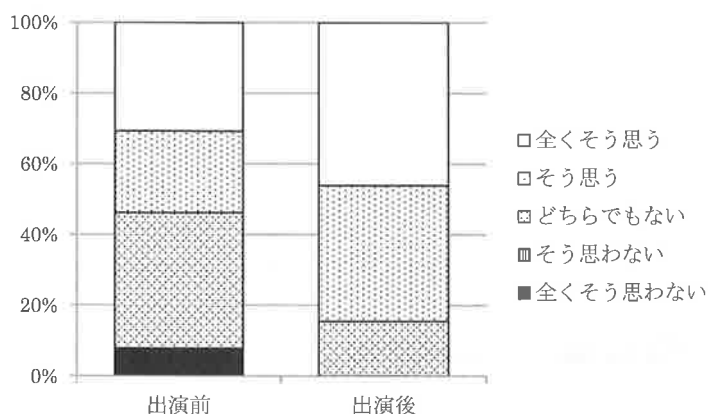
図表3.9 居住地別の出演前後の函館のまちづくりに関する意識変化
(個人参加、函館市内)

	出演前	出演後
全くそう思う	6 (37.5%)	8 (50.0%)
そう思う	5 (31.3%)	5 (37.5%)
どちらでもない	5 (31.3%)	3 (18.8%)
そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全くそう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	16 (100.0%)	16 (100.0%)



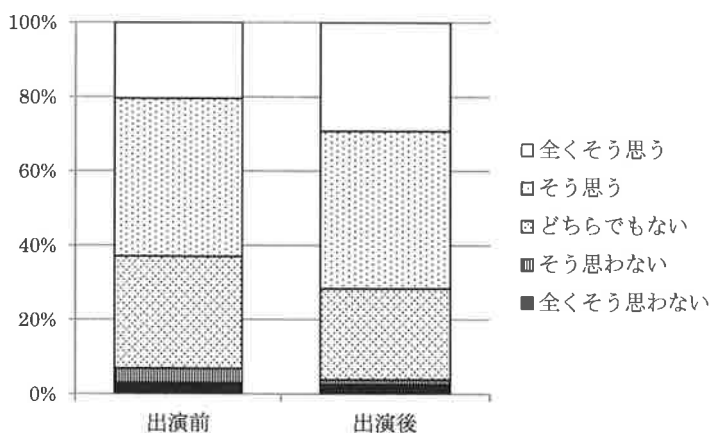
図表3.10 居住地別の出演前後の函館のまちづくりに関する意識変化
(個人参加、函館以外)

	出演前	出演後
全くそう思う	4 (30.8%)	6 (46.2%)
そう思う	3 (23.1%)	5 (38.5%)
どちらでもない	5 (38.5%)	2 (15.4%)
そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全くそう思わない	1 (7.7%)	0 (0.0%)
合計	13(100.0%)	13(100.0%)



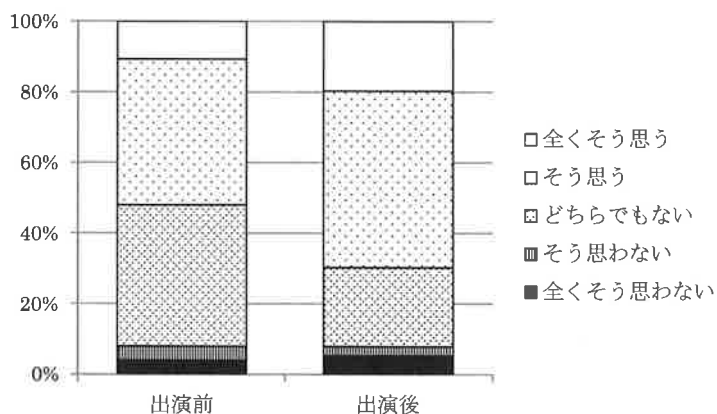
図表3.11 出演前後の函館のまちづくりに関する意識変化（団体参加）

	出演前	出演後
全くそう思う	48 (20.4%)	69 (29.2%)
そう思う	100 (42.6%)	100 (42.4%)
どちらでもない	71 (30.2%)	58 (24.6%)
そう思わない	9 (3.8%)	3 (1.3%)
全くそう思わない	7 (3.0%)	6 (2.5%)
合計	236 (100.0%)	236 (100.0%)



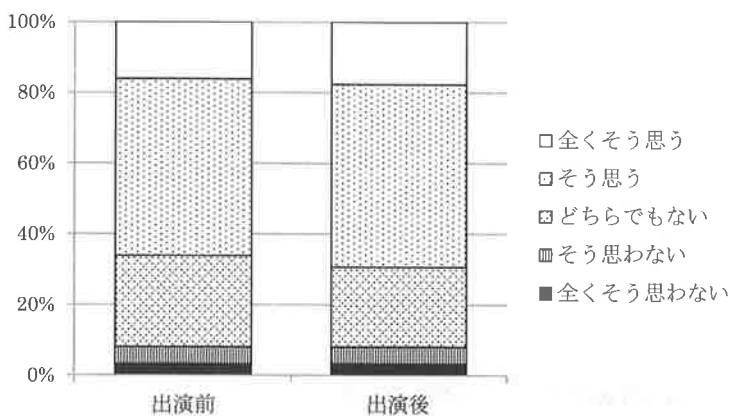
図表3.12 出演回数別の函館のまちづくりに関する意識変化
(団体参加、初めて)

	出演前	出演後
全くそう思う	8 (10.7%)	15 (19.7%)
そう思う	31 (41.3%)	38 (50.0%)
どちらでもない	30 (40.0%)	17 (22.4%)
そう思わない	3 (4.0%)	2 (2.6%)
全くそう思わない	3 (4.0%)	4 (5.3%)
合計	75 (100.0%)	76 (100.0%)



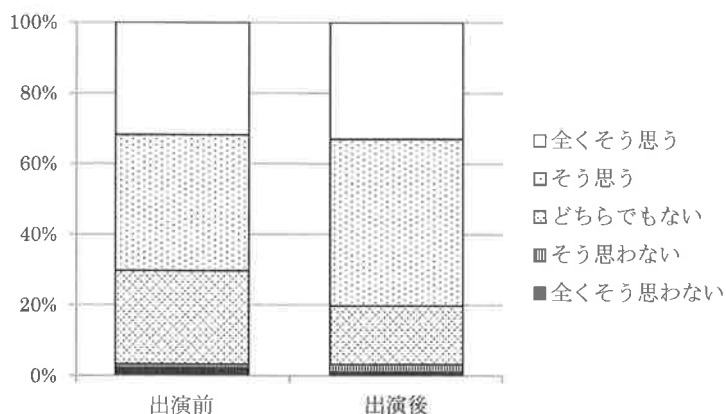
図表3.13 出演回数別の函館のまちづくりに関する意識変化
(団体参加、2・3回)

	出演前	出演後
全くそう思う	10 (16.1%)	11 (17.7%)
そう思う	31 (50.0%)	32 (51.6%)
どちらでもない	16 (25.8%)	14 (22.6%)
そう思わない	3 (4.8%)	3 (4.8%)
全くそう思わない	2 (3.2%)	2 (3.2%)
合計	62 (100.0%)	62 (100.0%)



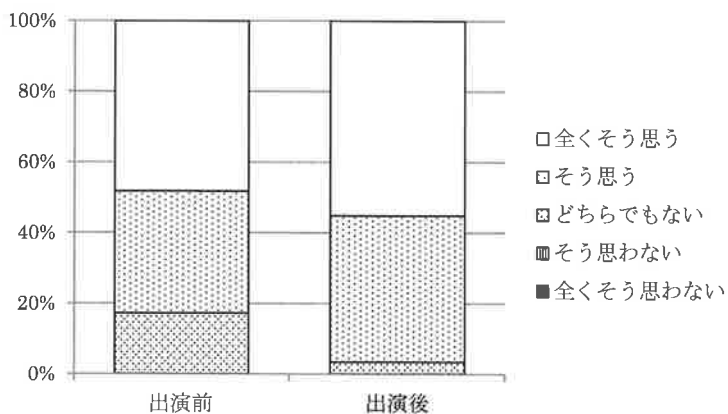
図表3.14 出演回数別の函館のまちづくりに関する意識変化
(団体参加、4回以上)

	出演前	出演後
全くそう思う	29 (31.8%)	30 (33.0%)
そう思う	35 (38.5%)	43 (47.3%)
どちらでもない	24 (26.4%)	15 (16.5%)
そう思わない	1 (1.1%)	2 (2.2%)
全くそう思わない	2 (2.2%)	1 (1.1%)
合計	91 (100.0%)	91 (100.0%)



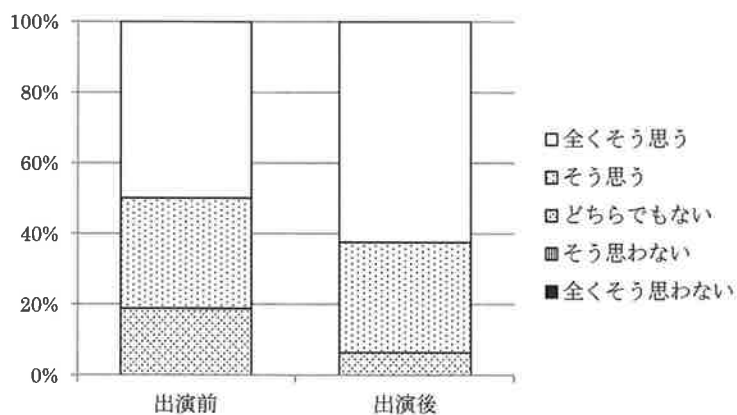
図表3.15 出演前後の函館の歴史に対する意識変化（個人参加）

	出演前	出演後
全くそう思う	14 (48.3%)	16 (55.2%)
そう思う	10 (34.5%)	12 (41.4%)
どちらでもない	5 (17.2%)	1 (3.4%)
そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全くそう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	29 (100.0%)	29 (100.0%)



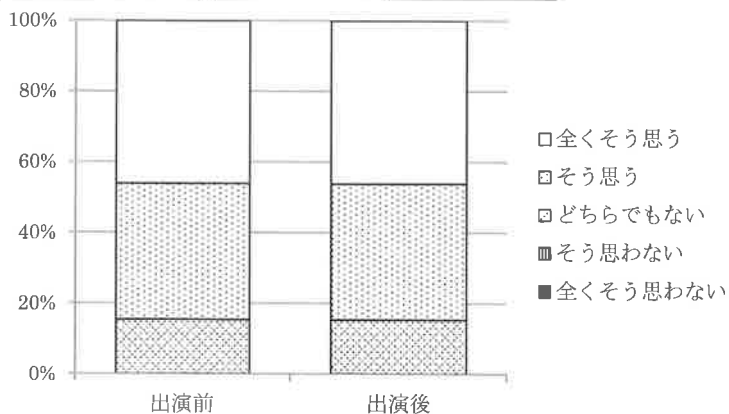
図表3.16 居住地別の出演前後の函館の歴史に対する意識変化
(個人参加、函館市内)

	出演前	出演後
全くそう思う	8 (50.0%)	10 (62.5%)
そう思う	5 (31.3%)	5 (31.3%)
どちらでもない	3 (18.8%)	1 (6.3%)
そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全くそう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	16(100.0%)	16(100.0%)



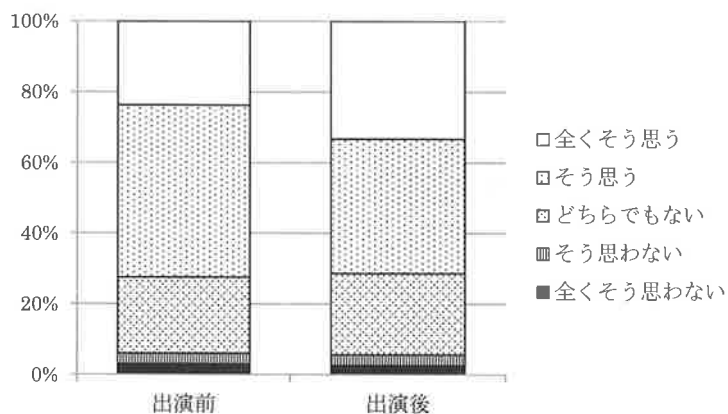
図表3.17 居住地別の出演前後の函館の歴史に対する意識変化
(個人参加、函館以外)

	出演前	出演後
全くそう思う	6 (46.2%)	6 (46.2%)
そう思う	5 (38.4%)	5 (38.4%)
どちらでもない	2 (15.4%)	2 (15.3%)
そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全くそう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	13 (100.0%)	13 (100.0%)



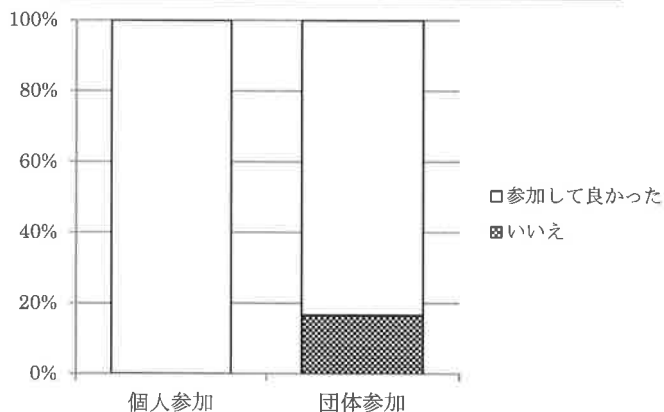
図表3.18 出演前後の函館の歴史に対する意識変化（団体参加）

	出演前	出演後
全くそう思う	56 (23.7%)	78 (33.3%)
そう思う	115 (48.7%)	89 (38.0%)
どちらでもない	51 (21.6%)	54 (23.1%)
そう思わない	7 (3.0%)	7 (3.0%)
全くそう思わない	7 (3.0%)	6 (2.6%)
合計	236 (100.0%)	234 (100.0%)



図表3.19 満足度

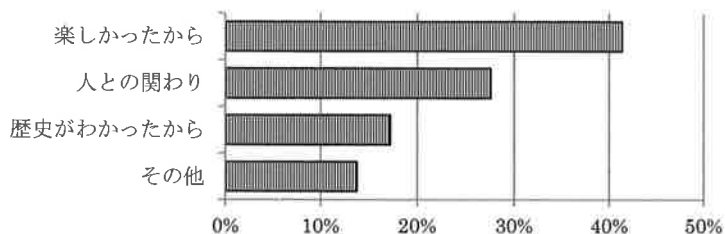
	個人参加	団体参加
参加して良かった	29 (100.0%)	191 (83.4%)
いいえ	0 (0.0%)	38 (16.6%)
合計	29 (100.0%)	229 (100.0%)



図表3.20 個人参加の満足度の理由

(n=29)

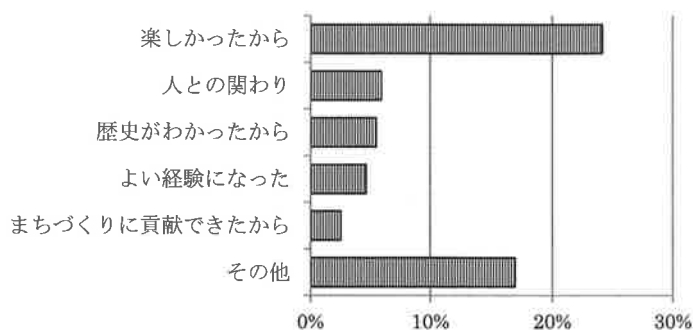
楽しかったから	12 (41.4%)
歴史がわかったから	5 (17.2%)
人との関わり	8 (27.6%)
その他	4 (13.8%)



図表 3.21 団体参加の満足度の理由

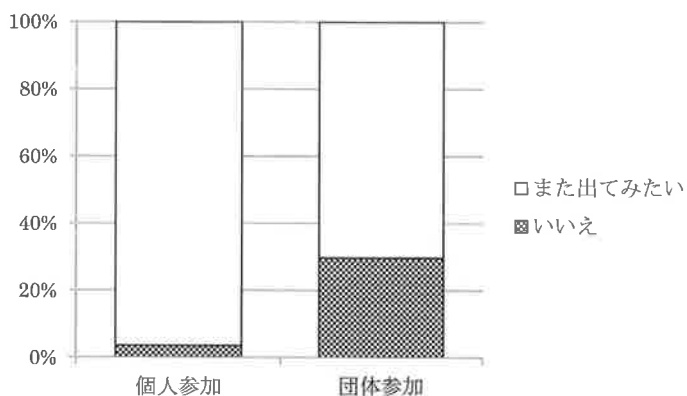
(n=236)

楽しかったから	57 (24.2%)
歴史がわかったから	13 (5.5%)
人との関わり	14 (5.9%)
まちづくりに貢献できたから	6 (2.5%)
よい経験になった	11 (4.7%)
その他	40 (16.9%)



図表3.22 再出演希望

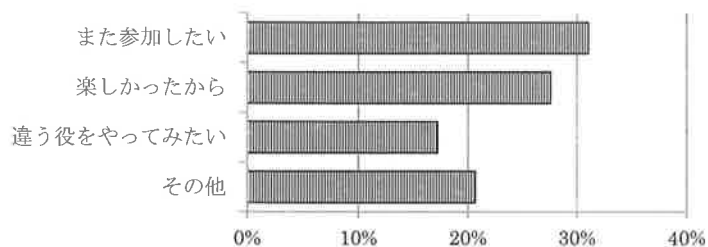
	個人参加	団体参加
また出てみたい	28 (96.6%)	161 (70.3%)
いいえ	1 (3.4%)	68 (29.7%)
合計	29 (100.0%)	229 (100.0%)



図表3.23 個人参加の再出演希望の理由

(n=29)

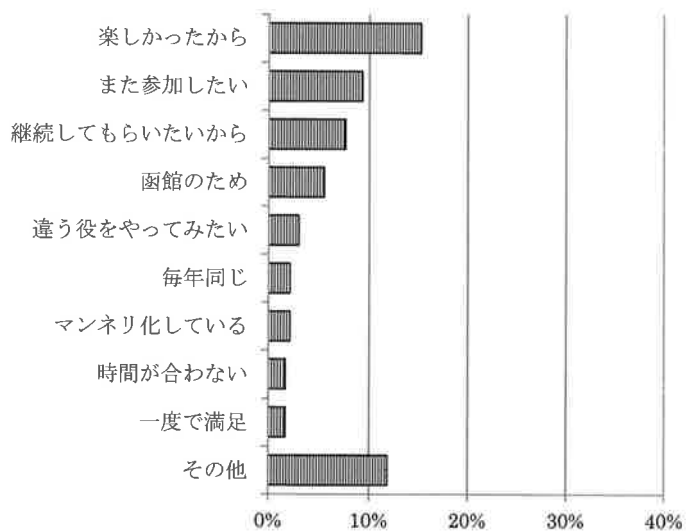
また参加したい	9 (31.0%)
違う役をやってみたい	5 (17.2%)
楽しかったから	8 (27.6%)
その他	6 (20.7%)



図表3.24 団体参加の再出演希望の理由

(n=236)

楽しかったから	36 (15.3%)
違う役をやってみたい	7 (3.0%)
また参加したい	22 (9.3%)
函館のため	13 (5.5%)
継続してもらいたいから	18 (7.6%)
一度で満足	4 (1.7%)
マンネリ化している	5 (2.1%)
毎年同じ	5 (2.1%)
時間が合わない	4 (1.7%)
その他	28 (11.9%)



4. まとめ

(1) 来場者調査

来場者は2012年度、2013年度であまり変わらない。ともに女性が6割、40代・50代・60代で半数を占めており、7割近くが函館市民である。

観劇は初めての人が半数程度である。函館市民は何度も観劇している人が半数を超えており、函館以外の人でも25%ある。

野外劇を知った経緯は「ポスター」、「知人・職場」が多い。来場者が「ポスター」だけでなく「知人・職場」という人のつながりの中で野外劇を知っていることがわかる。

観劇動機は「野外劇に興味がある」が4割近く、「おもしろそうだったため」、「歴史に興味があるため」が2～3割であった。一定程度、函館の「歴史に興味があるため」に観劇している人がおり、函館の歴史を伝えていく役割を果たしていることがわかる。

野外劇に出演してみたい人が3割近い。性別によって差は見られず、出演してみたい人、スタッフをしてみたい人はあらゆる年代にわたっていた。後述する出演者調査において、出演がまちづくりへの参加の意識変化につながることが示されており、希望者を出演やスタッフなどの担い手につなげていくことが函館の市民参加のまちづくりの土壌形成に役立つと考えられる。

(2) 出演者調査

個人参加は女性が多く、団体参加は男性が多い。個人参加は50代・60代で半分を占めているが、団体参加は10代・20代・30代で半分を占めている。

個人参加は函館以外の人が45%、団体参加は9割が函館市民であった。

個人参加と団体参加は性別、年代、居住地などが異なる。個人参加は団体参加とは異なる層の担い手の受け入れ窓口となっている。

出演動機は、個人参加で野外劇に興味があり、面白そうだったからという理由が多く、団体参加は知り合いや職場に頼まれたからという理由が多かつ

た。個人参加は個人の希望で参加しているが、団体参加は職場などに派遣の依頼があり参加することになったことがわかる。

出演回数は、個人参加は初めてが55%であり、20回という人もいた。団体参加は4回以上が4割であり、50回という人もいた。個人参加、団体参加ともに新しい担い手が加わっていると同時に、毎年の担い手になっている人がいることがわかる。

函館のまちづくりに参加したいと思うか尋ねたところ、個人参加では出演を通じて、函館のまちづくりにより参加したいと思うようになっていた。団体参加も個人参加ほど顕著ではないものの、出演を通じて、函館のまちづくりにより参加しようと思うようになっている。

函館の歴史に興味や関心はあるか尋ねたところ、函館市民の個人参加は出演を通じて、函館の歴史により興味や関心を持つようになっていたが、団体参加では出演を通じた意識変化が見られなかった。同じ函館市民であっても出演に対する個人の意思や希望が影響していると考えられる。

これらの出演を通じた意識変化を通じて、市民が担い手となっている野外劇・市民創造型イベントが、今後の函館の市民参加のまちづくりにつながっていく可能性が考えられる。ただし、個人の希望で参加する個人参加の方が、函館のまちづくりへの参加意識の向上などに役立っていることから、個人参加の受け入れ体制を広げていくことが必要と考えられる。

文献

- 1) 堺都市政策研究所：市民主体の地域活性化（音楽イベントを通じたまちおこし）に関する調査研究業務報告書、2011年
- 2) 沼田真一：市民参加型イベントにおけるソーシャル・キャピタルの考察 ―横浜トリエンナーレ2007を事例として、ソシオサイエンス 17、pp.159-174、2011
- 3) 観光庁：地域観光イノベーションに係る調査事業報告書、2013年

- 4) 鶴田浩一郎、野上泰生：NIRAモノグラフシリーズNo.06 地域の輝きを育てる「オンパク」モデル ―オンパク型イベント手法を通じた地域資源の活用と人材育成、総合研究開発機構、2008
- 5) 加藤麻理子、下村彰男、小野良平、熊谷洋一：地域住民による観光ボランティアガイド活動の実態と動向に関する研究、ランドスケープ研究 66(5)、2003
- 6) NPO法人堺観光ボランティア協会：「観光ボランティア活動から見た境のまちづくり」報告書、2013年